

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

平5-1532

⑬ Int. Cl.³E 04 F 13/08
13/14

識別記号

1 0 2 P
D

庁内整理番号

7023-2E
7023-2E

⑭ 公告 平成5年(1993)1月14日

(全3頁)

⑮ 考案の名称 複合化粧板

⑯ 実 願 昭61-143595

⑰ 公 開 昭63-48823

⑱ 出 願 昭61(1986)9月18日

⑲ 昭63(1988)4月2日

⑳ 考 案 者 滝 川 充 朗 富山県東砺波郡井波町井波1番地ノ1 大建工業株式会社
 ⑲ 出 願 人 大建工業株式会社 富山県東砺波郡井波町井波1番地ノ1
 ㉑ 代 理 人 弁理士 青 山 葆 外2名
 ㉒ 審 査 官 下 村 周 三

1

2

⑳ 実用新案登録請求の範囲

表裏面を貫通する複数の微小な貫通孔を有する無機質表面板と、釘打ち可能な裏面板とが、前記無機質表面板の少なくとも一側端部に、前記裏面板の側端部を突出させて嵌合部を設けるとともに、前記側端部に対向する前記無機質表面板の側端部を裏面板より突出させ、前記嵌合部に嵌合可能な嵌合受け部を設けて積層一体化したことを特徴とする複合化粧板。

㉑ 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は無機質表面の複合板、例えば、外壁や浴室等の化粧板として使用される複合化粧板に関する。

従来技術とその問題点

従来、外壁や浴室等の化粧板として使用される無機質板、例えば、タイル、ガラス板、石板等は重いうえに、硬くて脆弱であるので、釘打ち施工が困難であった。このため、前記無機質板は外壁下地材にモルタルまたは接着剤にて取り付けられていた。

しかしながら、前記無機質板が厚物や大版になると、その自重のためにモルタル等の養生中に位置がずれたり、脱落するおそれがあった。

一方、前記無機質板に予め釘打ち用実部を設け、釘打ち施工できるようにしたものもあるが、パネルの中央部に生じたふくれや反りを矯正する

ことができないという問題点があった。

問題点を解決するための手段

本考案は、前記問題点を解決するため、表裏面を貫通する複数の微小な貫通孔を有する無機質表面板と、釘打ち可能な表面板とを積層一体化した複合化粧板において、前記無機質表面板の少なくとも一側端部に、前記裏面板の側端部を突出させて嵌合部を設けるとともに、前記側端部に対向する前記無機質表面板の側端部を裏面板より突出させ、前記嵌合部に嵌合可能な嵌合受け部を設けた構成としてある。

作 用

したがって、本考案によれば、嵌合部に釘打ちできるとともに、無機質表面板の微小な貫通孔に釘打ちを打ち込んで仮止めできることになる。

実施例

以下、本考案にかかる実施例を第1図および第2図の添付図面に従って説明する。

第1図に示すように、第1実施例にかかる複合化粧板1は、積層一体化した無機質表面板2と裏面板3とから構成されている。

無機質表面板2は、表裏面を貫通する複数の微小な貫通孔4を有する平面方形の板状無機質材からなる。

無機質材としては、例えば、陶磁器タイル等のセラミック焼成体、天然石、人造石材、ガラスおよび高比重水硬性無機質材(例えば、GRC、高

3

比重石綿セメント板、スラグ石膏板等）が挙げられる。

微小な貫通孔 4 としては、例えば、直径 0.1～1mm 程度のものが好ましく、レーザ加工や無機質材の未硬化時にピン打ち加工を施して設ければよい。

裏面板 3 は平面方形で多孔質な板状材からなり、長さ 20～50mm の丸釘、スクリユウ釘、リングネイル等にて釘止めできるものである。

板状材としては合板等の木質板、あるいは、耐火性が要求される場合はケイ酸カルシウム板、木毛セメント板、無機質繊維板、石膏板等が挙げられる。

そして、前記無機質表面板 2 と前記裏面板 3 とは接着剤にて積層一体化しており、前記無機質表面板 2 の一辺または隣り合う二辺から裏面板 3 の側端部を突出させて嵌合部 5 を形成してあるとともに、この嵌合部 5 に対向する裏面板 3 の側端部から前記無機質表面板 2 の側端部を突出させ、前記嵌合部 5 に嵌合可能な嵌合受け部 6 を形成してある。

本実施例の施工方法としては、胴縁または合板等の壁下地に接着剤を介して複合化粧板 1 を位置決めし、その嵌合部 5 に釘打ちするとともに、所望の微小な貫通孔 4 に仮止め用針釘を打ち込んで仮固定する。

次に、前記複合化粧板 1 の嵌合部 5 に、他の複合化粧板 1 の嵌合受け部 6 を嵌合して位置決めし、その嵌合部 5 に釘打ちするとともに、その所望の微小な貫通孔 4 に仮止め用針釘を打ち込んで仮固定する。

順次、同様な施工を繰り返して貼設し、接着剤

4

が硬化した後、仮止め用針釘を引き抜き、施工を完了する。

第 2 実施例は、前述の実施例では無機質表面板 2 の表面形状が平滑なものであるのに対し、無機質表面板 2 の表面が凹凸面（第 2 図）または模様を有する場合である。

本実施例によれば、貫通孔 4 が目立たなくなり、化粧性が向上するという利点がある。

さらに、嵌合部 5 および嵌合受け部 6 には、位置決め凸部 5 a および位置決め凹部 6 a をそれぞれ設けてあるので、位置決めがより一層簡単になり、施工性がより一層向上するという利点がある。

考案の効果

以上の説明から明らかなように、本考案によれば、嵌合部を釘打ちできるとともに、無機質表面板の所望の微小な貫通孔に仮止め用針釘を打ち込んで仮止めできる。このため、モルタル、接着剤の養生中に複合化粧板の位置がずれたり、脱落することがなくなるとともに、その中央部に生じた反りやふくれを矯正して下地材に固着することができ、施工性、取付精度が向上する。

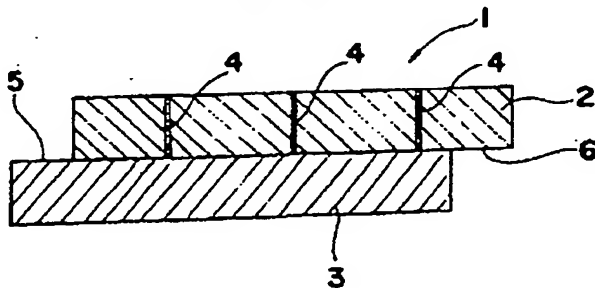
さらに、嵌合部に釘打ちしても、釘頭が他の複合化粧板の無機質表面板に被覆されるので、表面の化粧性を損なわないという効果がある。

図面の簡単な説明

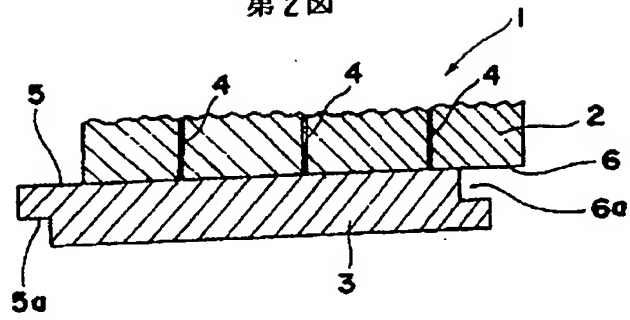
第 1 図および第 2 図は本考案にかかる第 1 実施例および第 2 実施例の断面図である。

1……複合化粧板、2……無機質表面板、3……裏面板、4……貫通孔、5……嵌合部、6……嵌合受け部。

第 1 図



第2図



- 1: 複合化粧板
- 2: 無機質表面板
- 3: 裏面板
- 4: 貫通孔
- 5: 嵌合部
- 6: 嵌合受付部